

式 辞

朝の空気が日一日と優しくなり、生命の息吹きみなぎる希望の季節を迎え、本日ここに、来賓の皆様方のご臨席をたまわり、保護者の皆様をお迎えして、平成二十七年度岩手県立大野高等学校入学式を挙行できますことは、喜びに耐えないところであり、厚く御礼を申し上げます。

ただいま入学を許可いたしました五十七名の新入生の皆さん、保護者の皆様、入学おめでとうございます。

皆さんは、大野高等学校の生徒として、本日、記念すべき第一歩を踏み出しました。

大野高校生は、誠意、進取、創造の校是のもと、日々の学習に励み、多くの困難を乗り越え、進路目標を達成しています。

部活動においては、運動部は、十七年連続インターハイ出場の卓球部始め、野球部、サッカー部、バスケットボール部、バレーボール部、ソフトテニス部が、それぞれ高い目標を掲げ、日々励ましあいながら活動しています。文化部は、本日の入学式のため、この春休み一生懸命備えてきた吹奏楽部始め、自然科学部、総合文化部が、各種大会やイベントへの参加など地域の皆様とともに活動しております。

そして、一年生全員が参加するナニヤドヤラ大会や、全校で取り組む「里山整備まつたけ山づくり」は地域に密着した活動として、県内外から大きな注目を集め、高い評価を得ています。

これらの成果や評価は、皆さんの先輩たちの、日々の積み重ねのたまものです。皆さんは、これを継承し、更に発展させていって欲しいと思います。

私は、今日、皆さんに三つのこととお話したいと思います。

一つ目は、大野という地域の中で学ぶことについての意義です。

私は、平成四年から六年間、大野高校に勤務していました。それから約二十年の月日が経ちました。赴任して数日、再びこの地に住み、今感じていることは、大きく変わったものもあるけれど、変わらないものもあるということでした。その変わらないものとは、地域の方たちの心遣いと優しきであります。一人一芸の里大野の財産は、自然環境や、大野木工や酪農などを始めとする地場産業とともに、そこにいる地域の人々こそであると確信しました。

そして、本日ここに入学した皆さんは、まさに大野という地域の宝であり、大野、岩手、そして日本の未来を築くかけがえのない存在です。そんな皆さんは、これから大野高校で学び始めますが、学びとは、教室で、先生から一方的に知識や技能を授けられるということではありません。一緒に入学してきた仲間、先輩、時に家族や地域の方々と共に、互いに尊重しあい、自ら課題を見つけ、解決し、発信していくという活動によって、「社会で活用される確かな学力」が培われるのです。

先日、大野高校を守る会の代表である南様から、「生きた知識を獲得し、『学び続ける力』を地域と学校が総がかりで行おう」という力強い言葉をいただきました。大野高校は、地域の方々のそんな思いが込められている学び舎であり、地域に育てられ、地域とともに歩んできた学校であることを皆さんに知って欲しいと思います。

二つ目は、「目標を持って生きる」ことの勧めです。勉強の目標、部活動の目標、進路の目標、そして、その日の目標、学期の目標、年間の目標、どんなに小さくてもいいので、たくさんの目標を掲げてみて下さい。できれば今日家に帰って、自分のこの一年の目標を書きだしてみてください。

なぜかという、目標を持つことが、毎日を充実させることに繋がるからです。「目標がその日その日を左右する」という言葉があります。ここで、大切なのは「目標」ではなく「その日その日」なのです。

常に目標を意識して行動した人は、それまでの日々の活動が充実していたということであり、たとえ目標に到達できなくても、その達成のために過ごしてきた時間に自信を持つことができます。そしてその蓄積は、きっと明日につながる力になるはずと思います。

三つ目に、これからの社会の中で生き抜く力について述べたいと思います。

皆さんは、グローバル人材という言葉を知ったことがあるかと思いますが、これは、単に、語学力に長け、海外で活躍する人のことではありません。

グローバル人材とは、主体性、積極性に富み、チャレンジ精神を持った人、そして、異文化への理解と、日本人としてのアイデンティティを持った人材のことをいいます。

異文化への理解とは、他者を思いやる気持ちや、他人の個性を尊重することに通じます。そして、日本人としてのアイデンティティとは、そのまま、地域の良さを見つけ地域に貢献することに繋がります。

岩手県出身の画家で、中央の画壇で活躍した橋本八百二という人物がいます。彼は、「世界人であればあるほど、むしろますます郷土人である」と述べています。「地球規模で考え、行動するならば、その貢献は世界を舞台にしたものであっても、地域に根ざしたものであっても等しい価値を持つ」のです。

皆さんには、たとえそれが小さな一歩であっても、自分ができることが何かを考え、実行する人になって欲しい。

本校の玄関には「君が憂いに 我は泣き 我が喜びに 君は舞う」という一節が掲げられています。これは、自己の利益よりも、他者の利益を優先して行動しようという「利他の心」を表すものでもあります。自分の隣の人を幸せにしようとするささやかな行動が、周囲の人々の心を動かし、やがては大きく社会や世界を変えるものに繋がるかもしれません。そして、何より、それは自分の生活を幸せにするものでもあるのです。

保護者の皆様。高校時代は、成長と変化が著しい時であります。これからも、お子様の努力の様子を、時に温かく、時に毅然として見守っていただきますようお願いいたします。

教職員一同、皆様から、私どもに寄せられている大きな期待を受け止め、一丸となって努力していく所存でございます。

最後に、本日もご列席の皆様重ねて感謝の意を表し、入学生の皆さんが充実した高校生活を送られることを心から期待して、式辞といたします。

平成二十七年四月八日

岩手県立大野高等学校 校長 下町壽男